

## 心を揺さぶる仏の群像

県立美術館で「祈りの仏像  
出雲の地より」が開催されて  
いる。

振り返れば中学生の時だった。美術の教科書に載っていた京都**広隆寺の弥勒菩薩**に衝撃を受けた。シンプルな造形なのに、気品に満ち洗練された姿に強く惹かれた。田舎育ちの少年が、エシガントという言葉を初めて理解した瞬間でもあった。

様々な仏様の中で最も馴染みがあるのは観音様だ。その観音様にも変わり種がいっぱいある。大阪南河内にある**観心寺の如意輪観音座像**。片膝を立て右手の指を頬にあて、腰を僅かにくねらすなど、コケテッシュな雰囲気を漂わす魅惑的な仏様である。平安初期の作だが、これを彫った仏師はどんな男だったのかと興味が湧く。この仏様、秘仏で毎年4月17・18の両日しか拝観できない。

観音様の中には千手観音という仏様もいる。無数の手を

差し伸べて衆生を救済すると言われている。ただ、多くの千手観音の手は42本で、本堂に千本の手を持つのは大阪藤井寺の**千手観音**ぐらいである。こちらも秘仏で毎月18日に御開帳される。

千手観音と言えば京都**三間堂**だ。本尊の両脇に**千体の千手観音**が並んでいる。堂内に足を踏み入れた途端、誰もが息を飲み、その迫力に圧倒される。平清盛の財力と一流の仏師たちの技が融合した、仏像たちの一大デモンストラクションである。

仏たちと向き合っていると、人間の小ささ、己の小ささを思い知る。謙虚にならねばと自らを戒める。古都の仏たちを訪ねるのは、もうしばらく我慢せねばならぬが、せめて県美に行って出雲に根付いた仏たちに逢ってみたいものだ。